

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第56回全日本合気道演武大会



第56回全日本合気道演武大会 和合の精神を正しく相伝 国内外から8000名が集う



植芝守央合気道道主による総合演武



植芝充央本部道場長



多田宏本部道場師範



山谷えり子参議院議員・
日本武道館理事



植芝守央合気道道主

5月26日、日本武道館において第56回全日本合気道演武大会（主催Ⅱ合気会、後援Ⅱ日本武道館ほか）が開催された。大会には、植芝守央合気道道主、植芝充央合気会本部道場長ほか本部道場指導部師範、同指導員、全国各地や海外支部などから集まった師範、修業者、約8000名が出場し、盛大に開催された。



開会式は定刻の正午に始まった。可児晋大会副会長・合気会理事による開会の辞の後、植芝守央合気道道主が挨拶を述べた。

「現在、合気道は国内はもとより、世界140の国と地域に多くの輪が広がっております。このように普及された要因の一つには、この大会が大きく寄与していると思っております。さらに合気道を正しく普及・振興していくことが私たちの責務です。本日演武される皆様方は先達の方々に感謝の念を持ち、相手を尊重する心を大切に、一期一会の心を持って演武に臨んでください」

次に、山谷えり子参議院議員・日本武道館理事が挨拶に立った。「この度、中学校、高校の学習指導

要領の中に、武道9種目が明記されました。合気道という言葉もしっかりと書き込まれ、中学生、高校生さらには日本中で、合気道に触れる機会が今まで以上に増えていくことを嬉しく思います。本日は皆様とともに道主を仰ぎ、また明日からのお稽古の糧としていきたいです」

その後、菅原一秀衆議院議員、山田美樹衆議院議員、島村大参議院議員の挨拶の後、来賓紹介、高村正彦日本武道館会長、小池百合子東京都知事、赤間二郎衆議院議員の祝電披露があり、演武に移った。



金澤威師範



難波弘之師範



森智洋師範



磯山博師範



遠藤征四郎師範

による演武



伊藤眞師範



入江嘉信師範

演武は2部構成で行われ、第1部は関東学生合気道連盟による元氣溢れる演武から開始された。待機所には、緊張している者、動きを確認している者など様々。しかし、演武では稽古の成果を十分に披露し、演武者たちは充実感に満ちていた。

第1部の結びには、植芝充央本部道場長が登場。立ち技、多人数掛けなど迫力ある技を展開し、会場内からは大きな拍手が送られた。

第2部では海外道場演武も行われ、熱心な演武に、世界に広がる合気道の輪を窺うことができた。その後、各道場演武、社会人団体演武と続き、終盤には本部道場指導部師範による自由演武が行われ、師範の技を学ぶべく、観客の視線が注がれた。自由演武を締め括るのは、御歳88歳の多田宏本部道場師範。遅く、円熟の演武に観客からは感嘆のため息が漏れた。

そして、大会の掉尾を飾って植芝守央合気道道主が畳に上がった。道主は立ち技、座り技、半身半立ち技、太刀取り、杖取り、多人数掛けを披露し、演武を終えると会場は万雷の拍手に包まれた。

道主への花束贈呈後、林典夫合気会常務理事が閉会の辞を述べ、大会は盛会裏に終了した。



佐々木貞樹師範



安野正敏師範



鳥海幸一師範



菅原繁師範



小林幸光師範

本部道場指導部師範



藤巻宏師範



鈴木俊雄師範



横田愛明師範



桂田英路師範



関昭二師範



栗林孝典師範



酒井光雄荒川合気会師範



船越光雄山形道場師範



小林保雄合気道小林道場師範

による演武



本澤俊三大阪合気会師範



畑山憲吾研心会師範



堀井悦二相生會師範



追分拓哉合気道福島武道館師範



竹中日出雄竹豊館師範



菅沼守人合気道祥平塾道場長



和田昭名古屋合気会師範

各道場師範



窪田育弘奈良合気会師範



嶋本勝行合気道豊中正泉寺道場長



五十嵐和男合気道五十嵐道場長



久保和雄川越道場師範





登録道場・社会人団体・学生団体演武

マンガ・武道の偉人たち
田代しんたろう



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、
双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、
園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鶴沢尚信(銃剣道)

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

全日本合気道演武大会に参加して



○相模合気道連盟 青江信明さん

(左、裕美さん (右))

信明さん「日本の伝統的な習い事を始めたいと思い、合気道を選びました。合気道を始めて3年半ほどになります。初段を取ることができ、今回が初めての参加です。今までの稽古の成果を確認したいと思って、今大会に臨みました」

裕美さん「主人が合気道を習い始めたのをきっかけに、私も一緒に稽古を始めました。このような大きな舞台での慣れができたらいいなと思いい、この大会に参加しています。非常に緊張しましたが、これまでの稽古の成果を出すことができたと思います」



○ひたちなか合気会 本田真樹さん

(左、紘也さん (右))

真樹さん「今回参加してみても、やはり普段の稽古以上のことはできないなど改めて思いました。上手く見せようとする、体が動かなくなりますね。今は息子と一緒に週に1、2回稽古しています。息子が合気道を始めるのと同時に、私も合気道を始めました」

紘也さん「父と合気道を始めて、13年目になります。今回の大会では、やはり日々の稽古の積み重ねが大事だと実感しました。稽古を休むと、技の熟練度が下がってしまいます。継続して稽古を続けていき、演武に磨きをかけていきたいです」



○かすみがうら合気会 須永和義さん

「演武は本当にあつという間でしたが、普段通りにできたと思います。この大会は他の演武会とは違った雰囲気です。演武することができます。また、他の団体の演武も見ることができますので非常に勉強になりますね」



○府中合気会 西原裕子さん

「合気道を始めて3年になります。合気道は楽しく、人間関係も広がり、学ぶことも多いですね。府中合気会は白帯でも積極的に参加させてくれるので、貴重な経験をさせていただいています。日本武道館は迫力もあり、また来たいと思いました」



○八千代合気道友会 渡辺信治さん

「普段は週2回、2時間くらい稽古しています。大会は30年くらい参加させていただいております。年々若い人が増えてきているのは良い傾向だと思います。体の動く限り出続けたいです。今回もいつも通り、緊張せずにできました」



○小山合気会 佐野道場 Debbie・ハランデーさん

「今日まで練習を積み、緊張せずに演武することができました。互いに協力しながら技術を引き上げていくことが合気道の魅力ですね。今は私が住んでいる地域(小山)で、日本人に合気道を教えています」

最新刊

大東流合気柔術琢磨会総務長

森 恕 著

大東流合気柔術琢磨会 その技法と合気之術

四六判・上製・232頁・2000円＋税

中興の祖・武田惣角から久琢磨に、そして森恕に受け継がれた神秘の武術。

小手を駆使した関節技・急所技から、抜き合気・入れ合気・触れ合気・前肩詰め合気などの合気之術まで、今まで門外不出とされてきた数々の技法の神髄と極意を、琢磨会総務長が明らかにする。



著者略歴

森 恕 (もり はかる)

昭和6年(1931)9月18日生。香川県高松市出身。37年久琢磨のもとに入門、40年教授代理、48年八段を授与される。53年大東流合気柔術琢磨会総務長となり、以来、40年にわたり大東流合気柔術琢磨会において指導、多くの門人を育成し現在に至る。平成14年勲四等瑞宝章受章。23年古武道功労章受章。23年日本古武道協会理事、27年同常任理事。

目次

1章 大東流合気柔術の歴史と特色

- 第1節 歴史と技法
- 第2節 技の大きな特色

2章 急所技

- 第1節 外四ヶ条
- 第2節 内四ヶ条

3章 関節技

- 第1節 外逆・呼吸締め、深逆
- 第2節 関節技と合気技の違い

4章 合気之術

- 第1節 抜き合気
- 第2節 入れ合気、触れ合気
- 第3節 肘延ばし
- 第4節 両手捕り合気投げ
- 第5節 前肩詰め合気、肩寄せ合気
- 第6節 禁忌の技、綾に組む
- 第7節 手甲の合気と腰の碎き
- 第8節 合気と拍子
- 第9節 掛手と合気(一)
- 第10節 掛手と合気(二)
- 第11節 手の内の合気と手甲の合気
- 第12節 背合気と寸口の合気
- 第13節 小手の合気

5章 琢磨会その他の技法

- 第1節 袖技
- 第2節 立ち極め
- 第3節 最後は足た
- 第4節 同時打ちと最後の固め技

6章 合気は技術である

編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出会い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

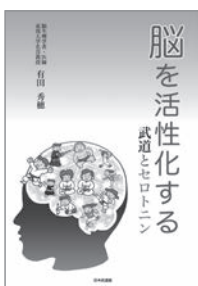
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著



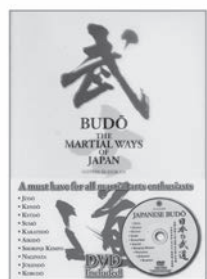
人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)

【演武者一覽】

51	合氣道指導員演武	上級課程、中級課程、初級課程	佐々木貞樹、鈴木
52	合氣道指導員演武	基本技抑々	小山雄一、日野皓
53	津津津		
54	津津津		
55	津津津		
56	津津津		
57	津津津		
58	津津津		
59	津津津		
60	津津津		
61	津津津		
62	津津津		
63	津津津		
64	津津津		
65	津津津		
66	津津津		
67	津津津		
68	津津津		
69	津津津		
70	津津津		
71	津津津		
72	津津津		
73	津津津		
74	津津津		
75	津津津		
76	津津津		
77	津津津		
78	津津津		
79	津津津		
80	津津津		
81	津津津		
82	津津津		
83	津津津		
84	津津津		
85	津津津		
86	津津津		
87	津津津		
88	津津津		
89	津津津		
90	津津津		
91	津津津		
92	津津津		
93	津津津		
94	津津津		
95	津津津		
96	津津津		
97	津津津		
98	津津津		
99	津津津		
100	津津津		

2018年「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」 日本武道館「鏡開き式」派遣事業 結団式・壮行会



19名がロシア・モスクワ市での「鏡開き式」に派遣された



高村正彦
日本武道館会長



白井日出男団長
(日本武道館理事長)



川端達夫
日本武道館常任理事



山下泰裕
全日本柔道連盟会長



乾杯の様子



三藤芳生日本武道館
常任理事・事務局長

安倍晋三内閣総理大臣とロシア・プーチン大統領の合意による2018年「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」開会式「ロシア年」開会式（ロシア・モスクワ市）への日本武道館「鏡開き式」派遣事業にあたり、結団式・壮行会が5月22日、日本武道館第2小道場において行われた。

会には団長である白井日出男日本武道館理事長をはじめ、団員ほか、来賓・関係者を含め59名が参加し、「鏡開き式」の成功祈念と派遣事業の壮途を祝った。

はじめに、「鏡開き式」派遣事業の団員一人ひとりが紹介され、結団式が行われた。白井団長、団長秘書、プロジェクト事務局3名、団員として日本甲冑武具研究保存会6名、荒木流拳法1名、竹内流柔術腰廻小具足2名、高津装飾美術4名、記録員1名、計19名の一行である。

続いて、高村正彦日本武道館会長が壮行の言葉を述べた。

「日本武道館『鏡開き式』が国営テレビでロシア全土に放映されると伺っており、ロシアにおける皆様方の期待は大変高くあります。それぞれの皆さまが立派な『鏡開き式』を披露して、日本文化の真髄を伝えていただくことを期待いたします」

来賓を代表して柔道家のプーチン大統領が尊敬する山下泰裕全日本柔道連盟会長より祝辞があった。

「4年前、高村団長の下で私も日本武道館のロシア派遣事業に参加しましたが、その時大変な盛り上がりでありました。今回の鏡開き式の成功が必ず日本とロシアの距離を縮めるものと思っています」

続いて、白井日出男理事長が団長挨拶を行った。

「『ロシアにおける日本年』『日本におけるロシア年』のスタートにあたり、モスクワ市ボリショイ劇場にて安倍首相とプーチン大統領が出席する開会式で、日本の伝統的な鏡開き式を披露することは誠に光栄に存じます。他にも国立体育大学、日本人学校で武道文化セミナーを実施いたします。これらも含めて団員一同、努力をしてみたいです」

川端達夫日本武道館常任理事は乾杯の挨拶として「団員の皆さまには重い責任と期待が課せられました。誇りを胸にしつかりと役割を果たすことと思います」と述べ、高々と杯が挙げられ、懇談となった。

最後に三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が「団員の皆さまには、けっして気を抜かず武道の不動の心で大役を務めていただきたいと思っています」と述べ、団の壮途を祝し、万歳三唱を声高らかに唱和した。

※「鏡開き式」派遣事業は、ロシア・モスクワ市にて5月23日から30日までの8日間を実施されました。その模様は月刊「武道」8月号に掲載いたします。

好評発売中

絵と文 中村 麻美 (なかむら まみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村 麻美 (なかむら まみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立斎宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひより越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介——我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹——母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子斎王——別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 八俣の蛇
- 十五 川中島の戦い——謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光——笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫——夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎——米百俵の精神
- 二十二 島津義弘——関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后——千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三——勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇ご東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山——海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 古田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春——譽れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村——大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇——祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

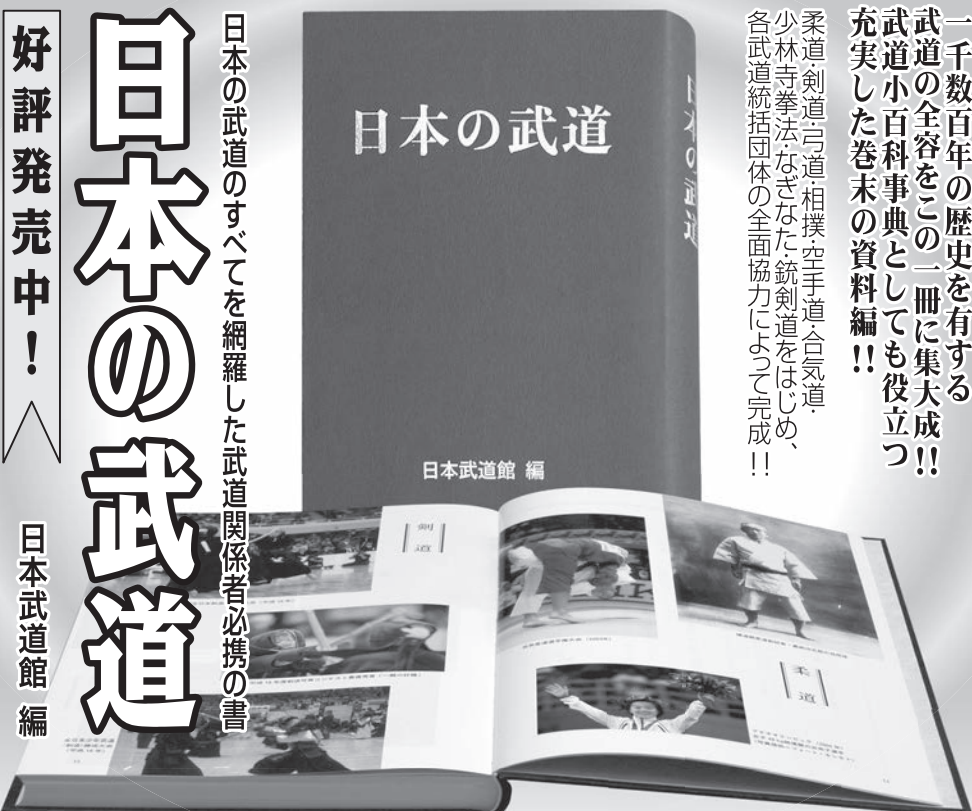


編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなごなた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本の武道

好評発売中!

日本武道館 編

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」）（「武道憲章英訳文」）（「武道憲章」）
カラー口絵（日本武道館、9武道、10日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え…………… 村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ①国際武道大学 ②国士館大学
③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学
⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第40回全日本高齢者武道大会



内閣総理大臣賞争奪戦＝上遠野久美（左）が面を決める

上遠野久美（静岡）に 内閣総理大臣賞

55歳以上の剣士が、剣道・銃剣道の覇を競う第40回全日本高齢者武道大会（主催＝一般財団法人全国老人福祉助成会）は6月4日、日本武道館で開催された。

大会には、北は北海道から南は沖縄まで35都道府県の719名が参加。90歳以上の選手も14名を数えた。各会場では年齢を感じさせない矍鑠とした高齢剣士たちが熱い試合を繰り広げた。また、会場内の至るところで、健闘を称え合ったり、お互いを応援したりする選手の姿もあり、和やかな様子が多く見られた。

午前9時より開会式となり、開会宣言、国歌斉唱に続いて物故者（過去の大会出場者）への黙禱が捧げられ、この1年間に天寿を全うされた剣士の冥福を祈った。次に大会会長の成元善一（全国老人福祉助成会会長）、岩立三郎（全日本高齢剣友会会長）が挨拶を行った。来賓祝辞、功労者顕彰、審判長挨拶に続き、草野吉四郎選手（福島）が選手宣誓を行った。開会式終了後、日本剣道形、居合、銃剣道の形が披露され、13の会場に分かれて試合が行われた。

剣道

■寿A組(85歳以上)

寿A組は、4連覇がかかった宮崎克己(福岡)と、3年前の寿B組優勝者である鈴木登(静岡)の決勝戦となった。試合は延長戦で鈴木面の決まり、鈴木優勝となった。

■寿B組(80歳〜84歳)

寿B組の決勝戦は、上遠野久美(静岡)と杉本秀彦(東京)となった。試合は、上遠野が序盤と終盤で面を2本決め、初優勝を飾った。

■内閣総理大臣賞争奪戦

内閣総理大臣賞争奪戦は、寿A組の優勝者・鈴木(静岡)と寿B組の優勝者である上遠野(静岡)で争われた。試合開始早々、上遠野が鋭い面を決め、一本先取。鈴木も一本を取り返そうとするが、上遠野の積極的な攻めに技を決めることができな

い。勢いに乗った上遠野は、2本目の面を決めて勝利。上遠野が内閣総理大臣賞の栄冠に輝いた。

◎内閣総理大臣賞・寿B組優勝Ⅱ

上遠野久美選手(静岡)

「優勝したのはおまぐれです。

去年80歳になった記念にこの大会に参加をし始めました。去年は準々決勝まで進み、それで出場をやめようと思っていましたが、たまたま先輩がこの大会にいて、『また来年もやろう』と言ってくださり、今年も参加しました。来年来ることができると分かりますが、参加できるように頑張っていきたいと思っています」

◎寿A組優勝Ⅱ鈴木登選手(静岡)

「今日の優勝は私一人の力ではなく、応援してくださった皆さんのおかげだと思っています。普段は子供達を教えながら、週3回稽古をしています。去年まで体調を崩して入院して

おり、3カ月くらいしか稽古を積むことができなかったもので、来年は、もっと稽古を重ねて2連覇を目指して頑張ります」

■男子団体戦

男子団体戦は、愛媛県が東京都を破り、見事優勝を果たした。

◎団体戦優勝Ⅱ愛媛県・竹内史郎選手

「今年は、優勝を狙ってチームを作ってきたので、それが的中し、嬉しく思います。何回か集まって交流の稽古会や強化合宿をし、本大会に備えてまいりました。これを機会に県内高齢者の剣友諸君の刺激になるように頑張っていきたいです」

■女子個人戦

女子個人戦の決勝は、増川清美(山形)が小池美千子(群馬)から面を2本奪い、優勝した。

■女子団体戦

女子団体戦では群馬県が神奈川県と対戦。中堅戦で島田郁子(群馬県)が胴を決め、合計本数11-0で群馬県が初出場・初優勝を飾った。

◎女子団体戦優勝・女子個人戦準優勝Ⅱ

群馬県・小池美千子選手

「初出場で初優勝だったため、自分たちも非常に驚いていますが、このような結果になり、とても嬉しく思います。もう少し応じ技を上手になれるように頑張りたいと思います」



寿B組優勝・内閣総理大臣賞
上遠野久美選手(静岡)



寿A組優勝
鈴木登選手(静岡)



男子団体決勝=愛媛県・竹内史郎(右)が攻める



女子団体決勝=群馬県・小池美千子(左)が攻める

銃剣道

■団体戦

団体戦決勝は、3連覇がかかる北海道と愛知県の組合せ。先鋒は愛知県の辻岡が下胴と上胴を決め、勝利。続く中堅戦では、北海道の村井が上胴と小手を決め、同点になる。大将戦で北海道の神村が上胴と下胴を決め、北海道が3連覇を果たした。



銃剣道団体決勝＝北海道・神村悦夫（右）が上胴を決める

■A組（75歳以上）

A組の決勝戦は山田道夫（栃木）と寺田信二（愛知）の対決となり、試合序盤、山田が上胴を決めて優勝した。

■B組（65歳～74歳）

B組は団体戦で優勝した村井謙二（北海道）と寺坂清仁（愛知）が決勝に勝ち進み、村井が上胴を決め、優勝を果たした。



銃剣道B組決勝＝村井謙二（左）の上胴が決まる

■C組（55歳～64歳）

C組決勝は相野照昭（青森）と水船一洋（北海道）の対戦。試合は相野が上胴と下胴を決め、勝利。昨年3位の雪辱を晴らし、見事、優勝を飾った。

■基本技（55歳以上）

基本技は決勝戦で渡邊正一（東京）が相野照昭（青森）を破り、優勝した。



銃剣道C組優勝
相野照昭選手（青森）



銃剣道B組優勝
村井謙二選手（北海道）



銃剣道A組優勝
山田道夫選手（栃木）

◎銃剣道A組優勝Ⅱ

山田道夫選手（栃木）

「優勝したのは7年ぶりなので、非常に嬉しいです。A組の中では一番若く、諸先輩方には負けるわけにはいかないの、頑張ってたんとか面目を保ちたいと思いました。（今後は）他の仲間とともに来年に向けて頑張りたいと思います」

◎銃剣道団体戦優勝・銃剣道B組優勝Ⅱ

村井謙二選手（北海道）

「『継続は力なり』を心がけて常に体を鍛えてきました。3年連続優勝しているので次も優勝できるように頑張っていきたいと思っています。選手皆が年齢を重ねているので、健康に気をつけながら頑張っていきたいと思っています」

◎銃剣道C組優勝Ⅱ

相野照昭選手（青森）

「本当に嬉しいです。去年悔しい思いもしたので、去年よりも少しでも上に行きたいと思って、去年の敗因を中心に1年間稽古をしてきました。今回は結果が出せたと思います。（今後は）みなさんに注目されるよう、しっかりと自分の銃剣道をやっていきたいです」



銃剣道団体優勝＝北海道



剣道男子団体優勝＝愛媛県



友との語らいに花が咲く



剣道女子団体優勝＝群馬県

大会結果

	組名	争奪戦	優 勝	準優勝	3 位
剣 道	寿 A (85歳以上)	内閣総理大臣賞 上遠野久美 (静 岡)	鈴木 登 (静 岡)	宮崎 克己 (福 岡)	山下美津男 (埼 玉) 渡辺 秀雄 (茨 城)
	寿 B (80歳～84歳)		上遠野久美 (静 岡)	杉本 秀彦 (東 京)	上田 憲幸 (福 岡) 伊藤 宗裕 (青 森)
	特 (75歳～79歳)	福田 健治 (埼 玉)		川村 博昭 (愛 媛)	澤口 高一 (山 形) 林 絃男 (神奈川)
	A (70歳～74歳)	渡辺 三則 (高 知)		加藤 隆幸 (神奈川)	沖田 康宏 (東 京) 佐伯 勝行 (福 岡)
	B (65歳～69歳)	石丸 俊武 (大 阪)		石川 昇 (東 京)	由井 一夫 (神奈川) 小野原完治 (埼 玉)
	C (55歳～64歳)	渡邊 弘三 (茨 城)		那須 孝明 (福 岡)	向井 俊二 (愛 媛) 田邊 勉 (千 葉)
	男子団体	愛媛県		東京都	神奈川県 新潟県
	女子個人戦	増川 清美 (山 形)		小池美千子 (群 馬)	古濱久美子 (岩 手) 村上 久恵 (大 阪)
	女子団体	群馬県		神奈川県	茨城県 長野県
銃 剣 道	A (75歳以上)	山田 道夫 (栃 木)		寺田 信二 (愛 知)	神村 悦夫 (北海道) 西村 輝夫 (鹿児島)
	B (65歳～74歳)	村井 謙二 (北海道)		寺坂 清仁 (愛 知)	福地 正義 (静 岡) 小出 秋夫 (静 岡)
	C (55歳～64歳)	相野 照昭 (青 森)		水船 一洋 (北海道)	神谷 好美 (愛 知) 加藤 正樹 (群 馬)
	基本技 (55歳以上)	渡邊 正一 (東 京)		相野 照昭 (青 森)	加藤 正樹 (群 馬) 寺田 信二 (愛 知)
	団体	北海道		愛知県	静岡県 青森県

山神眞一 著

(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。

付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円＋税

目次

- 第一章 一眼／子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声
- 第二章 一足／少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る
- 第三章 三胆／指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意
- 第四章 四力／技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの際的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方
- 第五章 残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業あとかき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

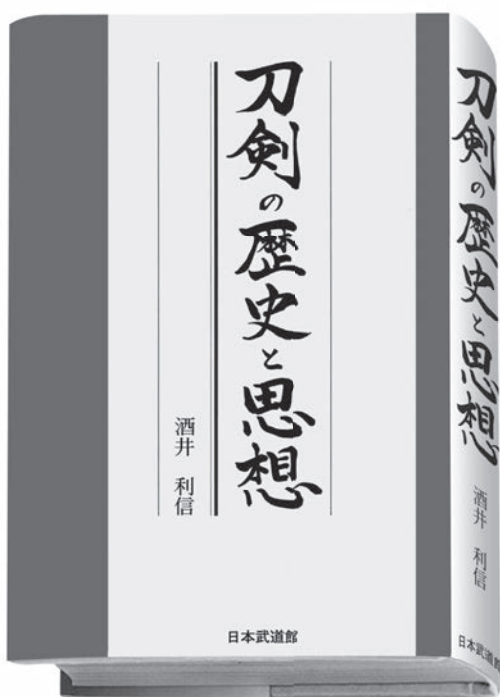
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円十税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

序章	第二章 探求の旅をはじめににあたって
第一節 刀剣の歴史	第二章 刀剣思想の源流
第二章 刀剣思想の源流	第一節 古代中国の宝剣伝説 太阿の剣
第一節 古代中国の宝剣伝説 太阿の剣	第二節 干将莫耶の宝剣伝説
第二節 干将莫耶の宝剣伝説	第三節 高祖の斬蛇剣
第三節 高祖の斬蛇剣	第四節 道教と剣
第四節 道教と剣	第五節 古代朝鮮の刀剣思想
第五節 古代朝鮮の刀剣思想	第二章 神話的イメージの形成
第二章 神話的イメージの形成	第一節 神話的世界の形成と剣神の誕生
第一節 神話的世界の形成と剣神の誕生	第二節 天地を繋ぐ剣 節霊剣
第二節 天地を繋ぐ剣 節霊剣	第三節 天地を繋ぐ剣 草薙剣
第三節 天地を繋ぐ剣 草薙剣	第三章 信仰のなかの刀剣思想
第三章 信仰のなかの刀剣思想	第一節 祀る剣 祀られる剣
第一節 祀る剣 祀られる剣	第二節 辟邪の呪剣
第二節 辟邪の呪剣	第三節 うけいの呪術と剣
第三節 うけいの呪術と剣	第四章 修験道と剣
第四章 修験道と剣	第四章 中世における刀剣思想
第四章 中世における刀剣思想	第一節 三種の神器の不思議
第一節 三種の神器の不思議	第二節 『平家物語』にみる三種の神器
第二節 『平家物語』にみる三種の神器	第三節 『太平記』が語る草薙剣像
第三節 『太平記』が語る草薙剣像	第五章 近世剣術における刀剣思想
第五章 近世剣術における刀剣思想	第一節 剣術伝書に語られる日本神話
第一節 剣術伝書に語られる日本神話	第二節 新当流にみる霊剣の技術
第二節 新当流にみる霊剣の技術	第三節 示現流にみる心の利剣
第三節 示現流にみる心の利剣	第四節 近世剣術における刀剣思想の展開
第四節 近世剣術における刀剣思想の展開	第六章 近代以降の刀剣思想
第六章 近代以降の刀剣思想	第一節 近代以降の刀剣思想
第一節 近代以降の刀剣思想	第二節 古代と現代を繋ぐ刀剣
第二節 古代と現代を繋ぐ刀剣	終章 稽古照今
終章 稽古照今	

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第 64 回関東学生剣道選手権大会



決勝＝星子啓太（右）の胸が決まる

星子啓太（筑波大）が初優勝

第64回関東学生剣道選手権大会が5月13日、日本武道館で開催された。大会には94大学468名が出場し、熱戦が繰り広げられた。

決勝は前大会3位の星子啓太（筑波大2年）と丸山大輔（中央大3年）の対決となった。試合は、星子が華麗に胸を決め、見事、初優勝を飾った。

また、上位32名に残った選手と敗者復活戦として行われた全日本出場決定戦を勝ち上がった28名の計60名が、7月7日・8日に行われる第66回全日本学生剣道選手権大会の出場権を獲得した。

【準決勝】

準決勝に残ったのは丸山大輔（中央大）、安井奎祐（早稲田大）、星子啓太（筑波大）、本間渉（中央大）の4名。試合は3本勝負で、時間は4分間。時間内に決着がつかない場合は延長戦を行い、一本先取した選手を勝者とした。

丸山大輔 ツメー 安井奎祐

序盤はどちらも積極的に攻めている。試合開始から1分30秒頃、安井



準決勝＝星子啓太（右）対本間渉



準決勝＝丸山大輔（右）の突きが決まる

の隙を見計らった丸山が喉元へ突きを決め、一本先取。安井は一本を取り返そうと激しく攻めるが丸山はそれを上手く躲す。その後、安井が鏝（つば）競り合いから引き胴を仕掛けるが、決まらず。丸山は素早く間合いを詰め、引いた安井に面を打ち、一本。丸山が決勝へ駒を進めた。

星子啓太 コー 本間 渉

試合開始からお互いに相手の動きを読みつつ、技を出すものの一本は決まらず、延長戦に突入する。試合開始5分30秒過ぎに本間が面を打とうと前に出た瞬間に星子が相手の隙を見極め、小手を決めて試合終了。星子は去年の同大会において準決勝で敗退したが、今年は見事、決勝進出となった。

【決勝】

星子啓太 ドー 丸山大輔

試合開始から両者は激しい攻め合いを展開する。序盤、丸山が星子へ突きを繰り出す、上手く決まらな。試合中盤、丸山が面に飛んだところを星子が返して華麗に胴を決め、一本先取。リードを許した丸山

は一本を取り返そうと果敢に技を繰り出すが旗は上がらない。そのまま星子が丸山の攻めを守り抜く形で、試合終了。星子の初優勝が決定した。

◎優勝Ⅱ星子啓太選手（筑波大学）



「去年は3位という結果で終わってしまったので、最後まで諦めず粘り強く戦おうと決めていました。優勝できてとても嬉しいです。去年は1年生だから負けてもいいという甘えた部分もあり、そこが自分の弱さだと思っていました。今回は、稽古でも絶対打たせないという気持ちを持って取り組んできました。（決勝の丸山選手は）去年の大会の2回戦で対戦しました。間合を計ることが難しい相手だったので、相手の動きを見すぎると打たれてしまうと思い、間合いを詰めることを心がけました。どの選手と戦った時大変でしたが、本間選手と対戦した時は延長戦になったので、それが一番苦しかったです。決勝の胴は狙って打ったのではなく、体が勝手に反応しました。現在、世界選手権の選手候補で

るので、選ばれることを目標にしながら、全日本学生選手権でも優勝できればと思います。また、全日本選手権の予選にも今年から参加できるので挑戦します」

◎準優勝Ⅱ丸山大輔選手（中央大学）



「準優勝となり少し嬉しいですが、やはり悔しいです。試合はとにかく勝つという強い気持ちで臨んでいました。これからの目標としては、個人戦での活躍だけではなく、秋の全日本学生剣道優勝大会の団体戦での優勝を狙いたいです」

【大会結果】

◇優勝Ⅱ星子啓太（筑波大）

◇準優勝Ⅱ丸山大輔（中央大）

◇第三位Ⅱ本間 渉（中央大）

◇敢闘賞Ⅱ岩切勇樹（国際武道大）

◇敢闘賞Ⅱ安井奎祐（早稲田大）

◇敢闘賞Ⅱ中西 港（国士舘大）

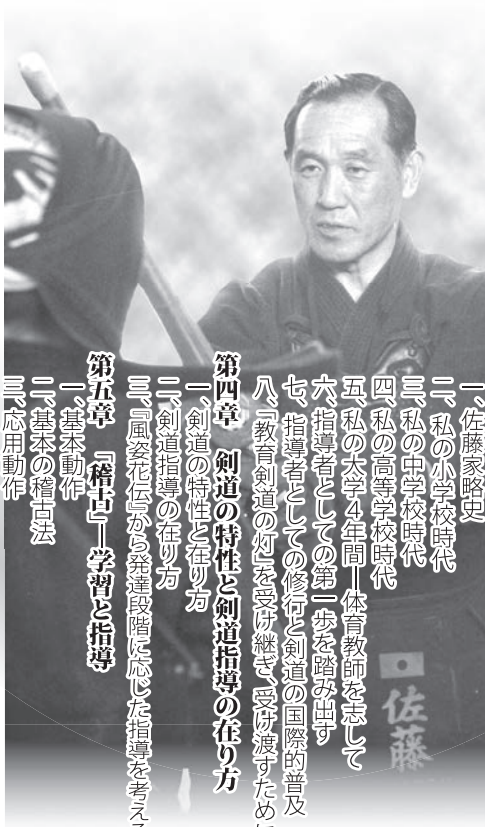
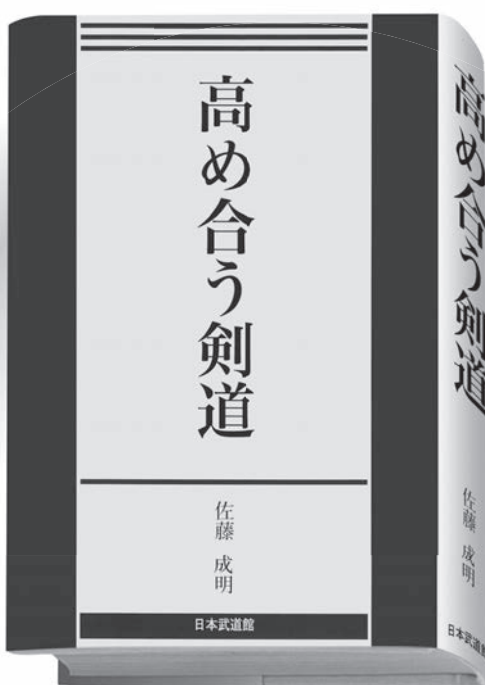
◇敢闘賞Ⅱ中根悠也（流通経済大）

◇敢闘賞Ⅱ染矢椋太郎（中央大）

◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著



目次

第一章 剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史

一、奈良時代～江戸中期―

闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで

二、江戸時代中期以降～現在―剣術から剣道へ

第二章 剣道と教育

一、教育に関する基礎知識

二、「三育思想」

三、「教育基本法」と「学習指導要領」

四、「礼」の教育について

第三章 自分史を綴る

一、佐藤家略史

二、私の小学校時代

三、私の中学校時代

四、私の高等学校時代

五、私の大学4年間―体育教師を志して

六、指導者としての第一歩を踏み出す

七、指導者としての修行と剣道の国際的普及

八、「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために

第四章 剣道の特性と剣道指導の在り方

一、剣道の特性と在り方

二、剣道指導の在り方

三、「風姿花伝」から発達段階に応じた指導を考える

第五章 「稽古」―学習と指導

一、基本動作

二、基本の稽古法

三、応用動作

四、稽古への取組方と方法

五、剣道における形の重要性

第六章 試合について

一、試合(一)―先達の文献から

二、試合(二)―剣道の「術理」

終章 高め合う剣道

一、稽古の意義と心得

二、剣道に関する古今の訓え

三、互いに学び高め合う教育剣道のために

“互いに学び高め合う教育剣道のために”

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。
これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円＋税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

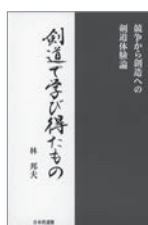


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)

平成30年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業

弓道授業現場を初めて視察

5月23・24日 M I H O 美学院中等教育学校

■開講式（23日）

13時よりM I H O 美学院中等教育学校会議室で開講式が行われ、初めに川端達夫日本武道館常任理事が主催者挨拶に立った。

「今日はM I H O 美学院の全面的なご協力で本事業が開催されますことに感謝を申し上げます。武道を通じて青少年の健全育成を図る目的で中学校において必修化され、いろいろな試みの中で積み上げてきたものが着々と成果を上げています。より良い教育のため、こうした研鑽を積むことは大事なことです。この2日間有意義ある研究ができますよう期待申し上げます」

平成30年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業（主催Ⅱ日本武道館・全日本弓道連盟・日本武道協議会）は5月23・24日、M I H O 美学院中等教育学校（滋賀県甲賀市信楽町）で行われた。弓道授業の実施率が低く、これまで本事業の受け入れ可能な中学校との調整がつかず、授業視察の実現が困難だった中で、今回は中学校武道必修化後初となる弓道授業視察を兼ねて行われることとなり、実践6年目の同校に白羽の矢が立った。

今回の授業視察は、全員が初めて弓道に触れる2年生と、授業経験のある生徒と初めて経験する生徒が共に受ける3年生の2コマを視察した。



後列左から高橋研究者、福田研究者、松本研究者、桑田研究者、雨宮研究者、岩本研究者、一原研究者、松尾課長
前列左から森氏、小水氏、中野会長、川端常任理事、井東校長、古嶋教頭

中学校武道授業（弓道）指導法研究事業関係者一覧

MIHO 美学院中等教育学校関係者

井東 弘（校長）

古嶋 昭義（教頭）

弓道授業外部指導者（滋賀県弓道連盟）

小水ともみ（教士六段）

森 玲子（錬士六段）

藤田 紘一（錬士六段）

研究者

桑田 秀子（全日本弓道連盟理事）

松本代志博（福島県弓道連盟副会長）

岩本 裕美（栃木市立大平中学校教諭）

高橋 潤子（静岡県立沼津聴覚特別支援学校教諭）

一原 悦子（MIHO 美学院中等教育学校教諭）

雨宮美知子（栃木県弓道連盟）

福田ふみよ（栃木県弓道連盟）

全日本弓道連盟

中野 秀也（会長・滋賀県弓道連盟会長）

三池 真幸（事務局次長）

高水 大輔（事務局主任）

日本武道館

川端 達夫（常任理事）

松尾 貴之（振興課長）

青木 元樹（振興課主任）

鶴 麻奈美（振興課事務員）

続いて、中野秀也全日本弓道連盟会長が挨拶を行った。
「私は滋賀県弓道連盟会長を兼ねておりまして、MIHO美学院の弓道授業に多少協力をさせていただいております。同校にはそれまでなかった弓道場を建てていただき、必要な弓道の備品もそろえていただきまし

た。私は授業が始まって3年目から毎年お手伝いをしており、生徒と一緒に勉強させていただいております。こちらの生徒は礼儀正しい子がたくさんおり、毎年来ることを楽しみにしております」
次に井東弘MIHO美学院中等教育学校校長が協力校を代表して挨拶

を述べた。
「本日はようこそおいでいただきました。ここは春は桜、秋は真っ赤な紅葉が見られ、今は鮮やかな緑の山中です。武道9つのうち、他の種目は対人競技ですが、弓道だけは違います。的にいかに矢を命中させるか。その中で自分自身と戦い、的に

向かって精神を集中する。本校の生徒が弓道授業を通じて、精神面で成長することを期待しております」
■弓道授業視察（23・24日）
今回の視察は2、3年生とも今年度最初の弓道授業であった。
はじめに両学年とも教員から礼の重要性を説明した後、弓道で使う筋



模範演武の前に射法八節を指導する



授業実施のために建設された弓道場

MIHO 美学院中等教育学校の弓道授業

- 授業は弓道場で実施
- 2、3年生による柔道との選択式
- 今年度は2年生8名、3年生7名（全員女子）が選択
- 年間授業時数は2時間続き（100分授業）の全5回
- 外部指導者は滋賀県弓道連盟から毎回2、3名派遣

肉をほぐすため、腕を中心に準備運動を行った。次に学習ノートを置いて、弓道のイメージを生徒に問い、狩猟用具や武具としての弓から、現在はスポーツとして行われていることを確認した。その後、歴史や特性について映像教材で学習した。

安全管理の面から弓道の授業中、絶対にしてはいけない行為として、矢を他人に向ける行為、弓を引いている人がいる場合の的前を通る行為を挙げた。

これから授業は、滋賀県弓道連盟の外部指導者がサポートに加わり、座礼、立礼、立ち方、座り方を指導した。続いて、模範演武として外部指導者2名が持的射礼を行った。その後、ひも弓を用いて射法八節を、ゴム弓を用いて離の感覚を生徒に味わわせたところで授業は終了した。

また、3年生の授業には昨年弓道授業を選択した生徒が3名いたが、この3名はひも弓まで他の生徒と共に復習として行い、その後は楯を着けて1本ずつの前で弓を引いた。

■研究協議（23・24日）

視察を行った授業の振り返りを中心に研究協議を行い、主に外部指導



(左上)
外部指導者による
模範演武

(左下)
襪の着用



(右上)
学習ノートを用いて
歴史や特性などを学ぶ

(右中)
立礼の指導

(右下)
ひも弓を使用した射法
八節の指導



者の効果的な活用方法について活発な討議がなされた。

特に弓道専門家である外部指導者は、まだ生徒が学習していない専門用語を多用する傾向にあるが、その解決の一例として、実技の前に一通り弓道用語を知識として教えることが挙げられた。また、ひも弓、ゴム弓、素引きなどといった弓道の段階的指導の中で、どの段階で何を教えるかを確認する必要があることも挙げられた。

■閉講式（24日）

閉講式では研究者を代表して桑田秀子研究者が講評を述べた。

「初めて授業視察という形で研究事業を行い、とても良い研究ができたが、弓道が全国の中学校で採択されるためにもさらなる研究の必要性を感じました。今回の内容を今後の研修会にも活かしていきたいです」

最後に主催者を代表して松尾貴之日本武道館振興課長が挨拶。

「今回の研究事業を充実した内容で行うことができました。日本武道館として中学校武道必修化の充実のために努力を続けていく所存です」

（文責）日本武道館振興課

好評発売中

漫画家
別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！



B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

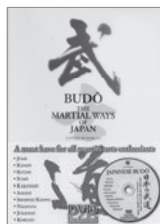
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



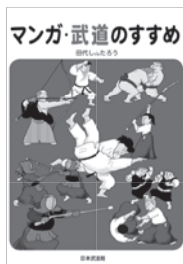
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。